

地球市民 として

地域社会や世界の人々に
心と力を合わせて

社会貢献とコミュニケーション

会社も社員一人ひとりも
それぞれがかけがえない地球に生きる一市民です
個々の力は小さくとも
自分たちのことから少しずつ
地域社会や世界の人々に心と力を合わせて
よりよい社会づくりに貢献しています

創業の地で地元小学校の地域学習支援

2010年10月14日および15日の両日、技術研究開発センター（横浜市鶴見区安善町）に横浜市立下野谷^{したのや}小学校の4年生の皆さんと校長先生、副校長先生、担任の先生77名が社会科見学に訪れました。

当社では、かねてより地元の京浜工業地帯の基礎を築いた創業者・浅野総一郎やその埋立事業について学習したいとの近隣の小学校からの要請を受け入れ、地域学習の一助としていただいています。

当日は、社員が先生となって“授業”を行ないました。

「ここが海だったの?」という生徒さんたちの驚きの声は、私たちが当社の100年を超える歴史を誇りに思う時であり、これからも後世に伝えていかなくてはならないという思いをあらたにする瞬間でもあります。



（左上）“授業”のようす。小学生の皆さんの真剣なまなざしに、当社の“先生”も熱が入る
（左下）屋上から京浜工業地帯を見る。このあたりが海であったことに驚く
（右上）航空写真を見ながら、現在との違いを話し合う （右下）浅野総一郎翁銅像

地域社会や世界の人々に心と力を合わせて

■ 社会貢献とコミュニケーション



インドネシア事務所 ジャカルタ漁港での取り組み



ジャカルタ漁港全景

ジャカルタ漁港は、数次にわたる日本の援助により近代的な漁港に発展し、インド洋で獲ったマグロなどを日本や欧州に輸出する最大基地としてインドネシアの水産業に大きく貢献してきました。当社はここで岸壁および防波堤の補修工事、また、



年間9000隻の漁船が出入りする港の安全を監視する高さ42mのコントロールタワーと、港湾事務所の建設工事に携わりました。

工事名：ジャカルタ漁港リハビリ事業パッケージ1
発注者：インドネシア共和国 海洋水産省

■ 小学生が社会科見学

2010年6月3日、7月の完成式を間近に控えるコントロールタワーに、ジャカルタ日本人学校小学部4年生88名の皆さんが社会科見学に訪れました。港を一望できる管理テラスに上ると「木の船がいっぱい」「よく見える」などの声が上がりました。



小学部4年生の皆さん

■ マングローブの植樹

岸壁および防波堤の補修に際しては、生物多様性に配慮し、環境と調和のとれたマングローブの樹林帯を併設しました。マングローブは無事に根つき、将来美しい林になると期待されています。

マングローブ域は水生生物の産卵・保育場として、また陸地を保全し沿岸生態系にとって快適な環境を創造することができます。



東北支店 仙台駅西口周辺を清掃

当社は、本社および支店や現場周辺で地域の清掃活動に取り組んでいます。

東北支店では自分たちが働く地域をきれいにしたいという思いで、仙台駅西口周辺の清掃活動を続けています。

2008年6月17日から始めたこの活動は2011年6月21日で40回目となりました。震災後最初となったこの日は30名の有志が参加しました。

支店ではこのほかに東北各県の港湾施設周辺や日本三景のひとつとして知られる松島でも清掃を行っており、今後は震災復興工事現場の周辺でも取り組んでいく予定です。



仕事前30分間の清掃

一人ひとりができることから始める

エコキャップ活動の推進

当社は、NPO法人エコキャップ推進協会が推進するエコキャップ活動に参加しています。

この活動は、ペットボトルのキャップを再資源化してCO₂の削減を図るとともに、キャップの再資源化で得た売却益で世界の子どもたちにワクチンを届けることを目的としたものです。本社・支店のオフィスから現場まで全社展開し、2010年度は42万5,276個を回収しました。これで531人の子どもの命を救い、3,349kgのCO₂を削減できます。

タイ・ラオスに「救援衣類を送る運動」

アジア連帯委員会(CSA)では1980年以来、難民キャンプやタイ・ラオスの方々に「救援衣類を送る運動」を行ない、東亜建設工業労働組合では毎年この運動に参加し、組合員に協力を呼びかけています。2010年はダンボール箱82個分の衣類を送ることができました。

チャレンジ25キャンペーン

当社は、地球温暖化防止のための国民運動「チャレンジ25キャンペーン」に参加し、オフィスはもちろん家庭においてもCO₂削減アクションを実践しています。2011年3月31日現在、356名が「個人チャレンジャー宣言」をしました。

